

# 令和元年度福井市公民館運営審議会連絡会調査研究委員会報告書

## テーマ「公民館と運営審議会のかかわり方」

今年度の調査研究委員会は「公民館と運営審議会のかかわり方」をテーマとして新しくなった和田公民館を訪問しました。公民館の活動を地域全体で取り組み特に「くちパク和いわい劇団」では子供から高齢者まで参加していました。

訪問日： 令和元年 11 月 19 日（火）

訪問先： 福井市和田公民館

参加者： 委員他 10 名

和田地区の概要

（人口） 約 11,500 人

（世帯） 約 4,800 世帯



つなげよう笑顔の輪

福井市和田公民館



あいさつをする北島館長



赤松会長



石畑副会長

## 和田地区の概要

福井市東部に位置しており、南北に国道 8 号線、東西に国道 158 号線が走る、きわめて交通の便の良い地区である。以前は緑豊かな田園風景が広がっていたが、現在は住宅地・商業地として急速に都市化が進んでいる。

また和田地区には、福井市防災センターや福井市東消防署があり、市民の防災の拠点としても期待されている。和田地区の中心には、総社和田八幡宮がある。平安時代中期に、清和源氏の祖「源満仲」が創建したとされる神社である。毎年、節分前の日曜日には、冷水を浴びて身を清める「大寒みそぎ」が行われ、県内外から多くの人を訪れる。

公民館は平成 28 年 4 月に現在の地に移転・新築された。この機に、住民から公募した和田地区のシンボルマークが誕生した。近年、当地区も核家族化が進む傾向にある中、和田の「和」は地域の団結や協力を意味する「輪」でもある。

2 つの重なり合った円で地名を表すとともにローマ字の緑色は、和田地区の自然を、円の赤色とオレンジ色は地域の協調と発展を象徴している。

# 和田地区の取組

## (1) 地区の歴史を語る「くちパク和いわい劇団」

地域に存続する歴史を探求し、寸劇で次世代に伝承する取組により異世代の交流が期待できる。特に「敬老会・ふれあいまつり」の場で共通の話題になるものを披露したいという気持ちから考え出された。今年で8年目になり、毎年工夫を凝らして、地区に関する内容を素材に、創作劇をつくりあげている。事前に録音し事前に録音したセリフに合わせて、やや大げさに身ぶり・手ぶりで演技をするので、誰でも気軽に参加できる。小学生から70歳代の高齢者まで、幅広い世代が公民館に集まって練習を重ねている。音声は調整ができるので観客にはっきりと伝わること、演じる側は体全体で表現できることなどが「くちパク劇」の魅力である。近年は、公民館の教育事業活動として定着しており、計画的に練習を行いながら本番に備えている。

今まで、地区の歴史や伝統、空襲など多様な題材を取り上げてきた。5月頃から練習や小道具作りを始め、脚本や稽古指導も和田地区の住民が手掛けている。平成27年には、あすの福井県を創る協会の“福井元気なふるさとづくり活動賞”の優良賞に輝いている。平成29年3月1日に文部科学大臣の公民館優良表彰が文科省で行われ優秀賞の5館に選ばれた。



【くちパク劇「濡れた石仏さま」】

上演された演目

- 「三本の矢」
- 「和田恋おけ物語」
- 「和田八幡宮の神渡り橋」
- 「和田が燃えた日」
- 「濡れた石仏さま」
- 「和田の糞坊主」
- 「一乗滝の白蛇」
- 「4つの光る珠」

## 「くちパク和いわい劇団演目のひとコマ」



公民館の取り組みについて紹介



和田恋おけ物語のナレーション



館長のくちパク博士が登場



出演の皆さんが退場



委員さんも熱心に鑑賞

## (2) 敬老会・ふれあいまつり

地区内の77歳以上の方をお祝いする「敬老会」、子供からお年寄りまで異世代間交流となる「ふれあいまつり」は、健康で活力あふれる町づくりを目的としている。平成21年から地区の「敬老会」を同時開催とし、さらに発展した。また、平成28年から新公民館で開催し、年間行事のメインイベントとして定着している。



「ふれあいまつり」で発表するコーラスグループ

## (3) 地域みんなで“学ぼう災”



和田地区自主防災連絡協議会の主催で、5つの体験コーナーを設けスタンプラリー形式で開催される。

和田小学校へ通う児童とその親が参加対象で、内容は①AED講習②三角巾応急手当と簡易担架③簡単ランタン作り④煙体験⑤防災グッズ作りで、各ブースで体験するごとにスタンプを押してもらい、全部終わった児童から炊き出しへ移行し、シーチキンと野菜で作ったお味噌汁がもらえる一連の流れがある。親子で防災について学ぶことは、地域の絆をより一層深めている。

## 対話により生まれる“心のつながり”

館長「公民館には、誰もが訪れやすく、住民同士が気軽交流できるスペースとして日当たりの良い玄関横に談話室が新設された。

また、1階の和室では毎月2回、若い母親と乳幼児を対象にした子育て支援事業「よちよちくらぶ」を実施している。育児相談はもちろん、母親同士の情報交換や親子の居場所づくりなどを目的としている。今年度は、「親子リトミック」や「わらべうたベビーマッサージ」など興味深い内容を計画している。

和田地区民のスローガンである“和田発展不已(やまず)”を合言葉に、積極的に多くの事業に取り組んでいる。特に、異世代交流を通して地域がますます活性化するように努めていきたい。そのためには、和田地区の大切な宝である歴史や伝統を若い世代に継承する事業にも挑戦するつもりである。

自分達の手で行動を起こすことをモットーに、それによって“何か生まれ”“何かを得る”と信じている。和田地区のシンボルマークにもあるように、地区民の間にすばらしい“和”が生まれ、大人も子ども

も、共に楽しく笑顔で集える地域づくりに取り組んでいきたい。

これらの積み重ねが、和田地区の発展につながっていくものと考えている。」との話があった。館長自らが、先頭に立って数々の事業に取り組み、和田地区に対する熱い思いを感じた。又お忙しい中の訪問にもかかわらず「くちパク和いわい劇団」の演技を見せていただき、調査研究委員一同この活動に感銘を受けた。和田公民館の建設にあたっては、様々な苦勞を克服された努力と、地域皆さんの絆の強さをうかがうことができ、今後の活動に活かせる和田公民館の訪問でした。



## 和田公民館を訪問して

### 伝わる熱い思い

公民館を訪問して 1 番最初に目についたのがシンボルマークで、公民館と運営審議委員会とが、地域住民と協力し合いまちづくりをしているのが一目でわかりました。北島館長や歌門委員長の熱い思いや、「くちパク和いわい劇団」の皆様の楽しみながら演じていることが伝わり、和田のすばらしさに感動しました。ありがとうございました。

会長 赤松 昇樹〈西藤島〉

### 一石三鳥に関心

新しい公民館にはこれまでの経験値が存分に網羅されていて、ただただ羨ましい限りでした。中でも、「くちパク和いわい劇団」が特筆されます。

和田地区の歴史・文化を織り込み、子、孫世代との交流も図った一石三鳥のねらいに頭が下がりました。

内田 佳次委員〈社南〉

### 歴史伝統を確立

「和田発展不已」を合言葉にまちづくりに励まれ、特に「くちパク和いわい劇団」を立ち上げられ、小学生からお年寄りまで参加し、地域の歴史を伝承する行事として確立され、企画から実施まで多くの困難を克服し継続されておられることに感心しました。

増永 秀則委員〈宝永〉

### キーワードが存在

調査研究委員会の訪問を快諾下さった、北島館長・歌門運審長・高瀬主事・上野主事・川瀬主事の皆様ありがとうございました。少子高齢化に伴い人口減少する地区がある一方、急激な都市化が進む和田地区には「和田発展不已」のキーワードが存在していました。地区の皆様の合言葉です。この合言葉を意識統一の核とし、くちパク和いわい劇団・敬老会・ふれあいまつり・地域みんなで”学ぼう災”よちよちくらぶ等各種行事が年間を通じて展開されています。これらのことは、素晴らしいシンボルマークの付いた”和だっち”和田公民館だよりからも、容易に理解できました。

また、あずまブロック 5 館の生涯学習に対する相互補完関係構築も他山の石として知恵を磨き地域振興に努めたい思いです。

石畑 千太栄委員長〈安居〉

### “公民館力、の素晴らしさ

この度の研修視察では大変貴重なお話を聞くことができました。ありがとうございました。特に公民館の設置目的である生涯学習と地区文化歴史等について、住民に広く深く認識させ、誇りと愛着を醸成する独自の手法「くちパク和いわい劇団」を立ち上げて活発に活動されていること、この厳しい状況下での公民館建設を進められた経緯は、とても参考になりました。この研修で和田公民館の「公民館力」の素晴らしさを勉強させて頂き、運審委員の一人として今後の活動姿勢に大いに参考となりましたことに感謝申し上げます。

和田公民館の益々のご活躍をご祈念申し上げます。

黒川 賢治委員〈明新〉

### 【くちパク和いわい劇団の公演】

毎年 1 作品ずつ発表してきたとのことで第 2 作目「わだ恋おけ物語」〈平成 25 年〉を観させていただいた。80 年前の和田地区にタイムスリップ完成度の高い内容に“ビックリ”子どもからお年寄りまで微笑ましく鑑賞できる内容で、大成功だった様に思えた。現在 8 作目まで上演できるとのことと察しられる。私も是非是非、観させて頂きたい。私どもの公民館活動も何とかせねば!!

油屋 敏行委員〈大安寺〉

### つどう・まなぶ

### むすぶ・わらう をモットー

和田公民館を訪問させて頂きました。公民館と地区の施設が一体となった大変使いやすい造りだと感じました。最も印象深かったのは、平成 23 年から始まった地区民による手作りの劇団「くちパク和いわい劇団」です。小学生からお年寄りまで自ら希望して劇団に入り、いきいきと活動していると伺いました。つどう・まなぶ・むすぶ・わらうをモットーとし、地区民の方々が一丸となって地域活動を盛り上げている素晴らしい地区だと感じたひとときでした。

天谷 功男委員〈東藤島〉